

序 文

臓器別に斬る小児の感染症 最適な抗菌薬の選択と期間とは？

久田 研 久田小児科医院/順天堂大学医学部小児科学講座

小児の感染症には、上気道感染症のような common な疾患から心血管系や中枢神経系といったまれな疾患など、様々な疾患が存在します。そして、新生児や免疫不全などの患者背景、さらには近年の抗菌薬感受性の傾向をも考慮したうえで治療方針を決定する必要があります。昨今、抗菌薬の適正使用が求められるなか、われわれは、漫然と広域抗菌薬を使うことなく、丁寧な問診や診察、そして検査によって感染臓器を正しく想定し、適切に抗菌薬や治療期間を決めなければなりません。これらすべての知識と経験を網羅し、日常診療に生かすことは困難です。そこで、本増刊号では、臓器ごとに感染性疾患を分類し、専門領域の先生方に執筆をお願いしました。

様々な疾患があるなかで、忙しい日常診療の現場でも利用しやすいよう、疾患ごとにサマリーと解説を分けて執筆して頂きました。サマリーには、その場で利用できるよう、感染臓器と想定する微生物、提出すべき検査、そして、経験的に使用される抗菌薬を簡潔にまとめて頂き、起因菌判定後の抗菌薬、効果判定、経口抗菌薬への変更、そして治療期間を記載して頂きました。解説は、時間があるときにじっくりと読んで頂き、専門領域の先生方の知識を共有いただければと考えます。そして、より詳しく疾患を把握されたい方のために、サマリーには、参考となる成書やガイドラインを紹介頂いております。より知識を深めたい方は各文献を参考にして頂くとよいと思います。

また、疾患もしくは感染臓器を想定するには、丁寧な問診や診察が必要です。重症度によっては時間的余裕がないこともあります。そこで、総論として、治療を開始するまでに必ず必要となる重症度判定や、感染症診断の原則や臓器別に症状を聴取していく方法、そして、処方する抗菌薬についての解説を執筆頂きました。さらに、すべての患者が健常者とは限りませんので、特殊な患者背景として、新生児および小児がん患者についても解説頂いております。また、近年の薬剤耐性化を鑑み、薬剤耐性菌の解説、時に必要となる予防投与について、そして、最後に抗菌薬の投与量一覧を掲載しています。

どの項目も専門領域の先生方の豊富な知識や経験に基づきわかりやすく解説頂いております。日常の感染症診療に役立つ一冊となっています。ぜひ、日々の診療にご活用頂ければ幸いです。そして、最後に、ご多忙の中、本特集の執筆をご快諾頂きました先生方に、この場をお借りして深謝申し上げます。